



自民党厚生労働部会副会長  
参議院議員・薬剤師 本田 顕子

本年7月、「新型コロナウイルス感染症と社会保障」を副題とした厚生労働白書が公表されました。

白書とは、中央省庁が所管する行政活動の現状やこれからの展望等を国民に知らせるための報告書のことを言います。

現在のみならず未来にわたって人や暮らしを守るという役割を持つ厚生労働省における今年の白書は、やはり新型コロナウイルス感染症が国民生活に与えた影響とそれへの対応が中心となっています。特に大きな影響を受けた人々の活動への対応の項目では「収入が急減した人」、「孤立の深刻化」、「女性」、「子ども」そして「医療・福祉現場」への対応について説明されています。また、白書では「今回の経験を踏まえ、新たな感染症の発生、拡大に備えて、受け入れ候補となる医療機関や場所・人材等の確保の考え方、医療機関間の連携の役割分担などを検討しておくことにより、危機に強い医療提供体制の構築が求められている」と述べています。

また、田村厚生労働大臣は、白書の冒頭で「『困った時』を支えることが社会保障の役割です。(中略)社会的危機は、いずれまたやってきます。その時、より迅速に、そして、より効果的に対応できる社会保障を構築することは、私たちに課された重要な使命です」と強い気持ちを訴えています。

女性、子どもなど幅広い年齢層に影響を及ぼしているのが現在のコロナ禍ですが、特に心の問題に対するケアが大切になってくることを今年の白書を見て強く感じました。我が国の社会保障を支える一員である私たち薬剤師も、いずれまたやってくる社会的危機に対し、いかに貢献できるかについて備えておくことが大切と感じています。

#### 参考資料

厚生労働白書

～新型コロナウイルス感染症と社会保障～〔概要版〕

<https://www.mhlw.go.jp/content/000810603.pdf>

